

授業科目名： 日本史Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：堀川 徹 担当形態：単独
実務内容 (実務家教員の場合)			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史		
<p>「学位授与の方針」との関係</p> <p>星槎大学は、「人を認める、人を排除しない、仲間を作る」という三つの約束のもと、「人と人、そして人と自然とが共生する社会の創造に貢献する」を教育理念としています。共生科学部は、この三つの約束、教育理念に基づき、「21世紀を創造する広く深い知の涵養」「共生する心の耕作」「課題探究能力の育成」「インクルージョン教育に基づいた社会実践を担い、社会変革を目指す人材の養成」を教育目的とし、以下の「星槎共生スピリット」を身に付けたものに学位を授与します。</p> <p>A. 共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現の専門的知識を生かし、狭い専門領域を越えて統合しようとする意志を持つこと。</p> <p>B. 問題が生起する現場において、専門知や統合知を使い、解決のために実践しようとする気概を持つこと。</p> <p>C. 共感理解教育の理念を認識し、実践すること。</p> <p>D. 多様な人々や生命に対して、他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るという星槎の三つの約束の精神に則って、共生社会の創造に貢献する姿勢を身につけていること。</p> <p>E. 個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけていること。</p> <p>F. 共生社会創造の目的のために、絶えず学び続ける意欲を持つこと。</p>			
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>授業のテーマ</p> <p>高等学校の地理歴史科の教員を目指す者が、日本史（原始・古代から中世）を多角的に学び、基礎的な知識及び知識を得るための方法論を修得する。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原始・古代から中世までの日本史の大まかな流れを説明できる。 ・日本史（原始・古代から中世）に関する歴史的事項を多角的に理解し、説明することができる。 ・日本列島のみならず、周辺地域との関連のなかで日本史（原始・古代から中世）を理解し、説明することができる。 ・問題意識をもって、自ら主体的に学ぶことができる。 ・歴史的事項の因果関係・相関関係について理解し、説明することができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>日本史（原始・古代から中世）について、周辺地域との関りに留意しながら概観する。単に歴</p>			

史的事項の羅列にとどまらず、歴史的事項の因果関係・相関関係に着目する。

授業計画

- 第1回：原始からヤマト政権へ—テキスト①1章～3章—
- 第2回：5世紀・6世紀の東アジアと倭国—テキスト①4章・5章—
- 第3回：律令国家の形成—テキスト①6章・7章—
- 第4回：奈良時代の中央と地方—テキスト①8章・9章—
- 第5回：遣唐使と天平文化—テキスト①10章・11章—
- 第6回：平安京の時代—テキスト①12章～14章—
- 第7回：摂関政治と東アジア—テキスト①15章～17章—
- 第8回：地方政治の変容と院政—テキスト①18章～20章—
- 第9回：中世の日本—テキスト②1章・2章—
- 第10回：中世の武士・朝廷・宗教—テキスト②3章～5章—
- 第11回：北条氏の時代と新たな仏教—テキスト②6章～8章—
- 第12回：鎌倉幕府の滅亡と南北朝時代—テキスト②9章～11章—
- 第13回：室町殿と守護大名—テキスト②12章・13章—
- 第14回：中世の村落と戦国時代の開幕—テキスト②14章～16章—
- 第15回：戦国大名と地域社会—テキスト②17章・18章—

定期試験

※スクーリングでは第1回～第4回を実施する。

スクーリングでの学修内容

主に、第1回～第4回の内容を含む。

教科書

- ①佐藤信編『大学の日本史①古代』山川出版社、2016
- ②五味文彦編『大学の日本史②中世』山川出版社、2016

参考文献

- ・木村茂光・小山俊樹・戸部良一・深谷幸治編『大学でまなぶ日本の歴史』吉川弘文館、2016
- ・受講生自らが収集する。

学生に対する評価

スクーリング評価（25%）、レポート評価（25%）、科目修得試験（50%）を総合して評価する。